小学生4年生～6年生の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

家族のためにできる小さなこと

気仙沼市立松岩小学校 六年 三浦 翠

最近ぼくは初めて知ったことがあります。それは高学年になると、親と手をつないで歩く人がほとんどいないという事です。

僕は小学六年生になった今でも、外を歩くときはお父さんと手をつないで歩いています。

でも六年生になったある日、友達に、「翠君って、まだ親と手をつないで歩いてるんだね。昨日車の中から見かけたんだよ。」と、言われたのです。僕は不思議に思いました。僕は小さいころから、外を歩くときは道路だけでなく、スーパーの駐車場でも店内に入るまでは、お父さんと手をつながなかった事がありません。記憶しているのは、小さいころ、早くお店の中に入りたくて、お父さんの手をふりほどいて走り出そうとした僕の手を笑いながらも絶対に離さずに僕と一緒になって走っていた事です。でも友達に言われて、六年生になって親と手をつないで歩くなんて、恥ずかしい事なのかと思ってきました。ちょうどその日の夜に家族で買い物に出かけました。もちろん、お父さんと手をつないでいました。そこで聞いてみることにしました。

「もう六年生だから、手をつないで歩かなくてもいいんじゃない？この前友達に見られて、少し恥ずかしかったんだよ。」

するとお父さんは、

「そっかあ。でも、小学生のうちは手をつないでおこうよ。」

と笑いながら言っていました。その時はお父さんはそこまでしか言いませんでしたが、うちに帰ってからもう一度話しかけてきました。

「あのね。翠と手を繋ぎたい、て気持ちもあるけど、本当は翠が道路や駐車場で他の車に迷惑をかけないように手を繋いでいるんだよ。」

僕ぐらいの身長でも車のドライバーからは見えていない事が多いという事、高学年くらいでも興味をもったものに周りを見ないで走り出してしまう事、そしてお父さんが子供のころ、親と手を繋がずに走り出してしまい、車にひかれそうになって叱られたことを話してくれました。

そういえば、テレビで子供が事故にあったニュースが流れるたびにお父さんは「車のドライバーも悪いかもしれないけど、一緒にいた親は何をしていたんだろう？」と言っていたことを思い出しました。

恥ずかしいって言ってごめんなさい。お父さんはただ僕と手を繋ぎたかったわけではなく、僕の命のことを考え小さな頃から決して手を離さないようにしてくれていたのです。すごく小さい事かもしれないけれど、手を繋ぐだけで未然に事故を防いでくれていたのです。

お父さんと手をつないで歩くのは僕が中学生になるまでの残り半年くらいかもしれませんが、今日から僕の方からお父さんと手を繋ぎ、車のドライバーから見落とされないようにしていこうと思いました。

宮城県警察本部長賞

笑顔が行き交う、みんなの駐車場

石巻市立釜小学校 四年 渋谷 咲耶

休日の日曜日、私は家族と一緒に車で近くの大きなスーパーへ買い物に行くのが楽しみです。休日のショッピングセンターはたくさんな車や買い物客でにぎわっています。買い物を楽しむ家族連れや、手押し車を押して、歩くお年寄りなど、いろいろな人が行き交う場所だからこそ、安全への気配りがとても大切な場所だと感じています。

ある休日の午後、お母さんの車でスーパーの駐車場に入った時のことです。空いている駐車スペースを探して、ゆっくり走っていると、店の出入り口近くの横だん歩道で大きな買い物袋を持ったおばあさんが立っていました。車が次々と通りすぎていくため、おばあさんは渡るのをためらっているように見えました。お母さんは車をピタッと止め、笑顔でおばあさんに「どうぞ」と手で合図を送りました。するとおばあさんは安心した表じょうになり、「ありがとうございます」と深々とおじぎをして、ゆっくりと横だん歩道を度って行きました。

お母さんは「駐車場は車と歩行者のきょりがとても近い場所なんだ。特にお年よりは、荷物が重かったりしているからドライバーが必ず一時ていしして安全をたしかめないといけないんだよ」と教えてくれました。助手席でその様子を見ていた私は、ドライバーのやさしい合図が、歩く人によってどれだけ大きな安心になるかを実感しました。

駐車場の中は、バックで車を出そうとする車や、急に動き出す車があり、歩行者にとっても危険がひそんでいます。特に高齢の方は、若い人のようにす早く動いたり近づいてくる車の音にすぐ気付いたりするのがむずかしい場合もあります。だからこそ、運転するがわがわが、「焦らず、ゆとりを持つこと」がとても重要なのだと分かりました。

私はまだ車の運転はできません。でも、車に乗っている時は助手席から「後ろに人が歩いているよ」「右からお年よりが来ているよ」とお母さんに声をかけ、一緒に安全をかくにんすることができます。また、自分が歩く立場になった時も、止まってくれた車にお礼のおじぎをして、ドライバーとおたがいに、思いやりの気持ちを伝え合いたいです。

事故のない安全なまちをつくるためには、一人ひとりの「ゆずり合う心」と「一歩立ち止まるやさしさ」が必要です。子どもから、お年よりまで誰もが笑顔で買い物を楽しみ、安心して家に帰れるように、私も日頃から思いやりの心をもって交通安全に取り組んでいきます。

小学生4年生～6年生の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県教育委員会教育長賞

交通ルールの大切さ

涌谷町立月将館小学校　五年　成澤樹希

ぼくのおじいちゃんは、交通指導隊として地域のみんなの安全を守る活動をしています。朝、学校へ行く時間になると交差点に立って、車や自転車、歩行者に声をかけてます。ぼくはおじいちゃんの姿を見て、「交通ルールはみんなの命を守るためにあるんだ。」と思うようになりました。ある日おじいちゃんと一緒に交差点の近くを歩いていると、信号が青になる前に渡ろうとする人がいました。おじいちゃんは「少し待てば安全だからね。」とやさしく声をかけていました。その人は立ち止まり、信号が青になってから渡りました。その様子を見て、たった数秒待つだけで事故を防げることを知りました。ぼくも学校へ行く時は、横断歩道を渡る前に左右を見て、車が止まったことを確認してから渡っています。自転車に乗るときは、飛び出さないように気をつけています。でも、急いでいるときは、早く行きたい気持ちになることもあります。そんなとき、おじいちゃんが暑い日も寒い日も交差点に立っている姿を思い出します。交通ルールを守ることは、自分だけではなく、家族や友達を安心させることにもつながると思います。ニュースでは、交通事故でけがをしたり命を落としたりする人がいることを知りました。もし一人一人が信号を守ったり、安全確認をしたりすれば、防げる事故もたくさんあると思います。交通ルールは、めんどうな決まりではなく、みんなが安心して生活するための約束です。ぼくは、おじいちゃんのように地域の人を守る仕事はとてもすばらしいと思います。交通指導隊の活動があるから、安心して学校にへ通える人がたくさんいます。ぼくもこれからは、おじいちゃんに「見られているから守る。」のではなく、自分から進んで交通ルールを守れる人になりたいです。そして、友達とも声をかけ合いながら、安全にすごしていきたいと思います。交通ルールを守ることは、自分や大切な人の命を守ることだということを、これからも忘れずに生活をしていきたいです。

一般社団法人 宮城県交通安全協会長賞

日々の努力でつながる命

石巻市立石巻小学校　六年　樋口心春

最近、ニュースで交通事故についての報道を目にすることが増えました。車と歩行者の事故、自転車による事故など、毎日のように悲しい出来事が起きています。事故の原因を見ると、少しの不注意や大丈夫だろうという油断が関係していることが多いと感じました。

私たちは普段、学校へ行ったり、友達と遊びに行ったりするために道路を使います。毎日通っている道だからこそいつの間にかいつも通っているから大丈夫と思ってしまうことがあります。しかし、道路ではいつ何が起こるかわかりません。車が急に出てきたり、自転車や歩行者が近くを通ったりすることもあります。

特に最近では、スマートフォンを見ながら歩くながらスマホや、自転車に乗る時のルール違反による事故も問題になっています。少しの時間だから、周りを見ているから大丈夫と思っていても、その一瞬の油断が自分や誰かの大切な命を傷つけてしまうかもしれません。

交通安全で大切なことは、難しいことをすることではなく、一人ひとりが当たり前のことをきちんと守ることだと思います。信号を守る、道路を渡る前に左右を確認する、自転車に乗る時は周りに注意するなど、小さな行動の積み重ねが事故を防ぐことにつながります。

私は、命は一度失ってしまうと戻すことができない大切なものだと思います。自分の命だけでなく、家族や友達、周りにいる人の命を守るために、交通ルールを守ることが大切だと感じました。

自分だけは大丈夫だと思わず、いつでも安全を意識して行動することが、悲しい事故を減らす第一歩になると思います。これからも毎日の生活の中で交通安全を心がけ、安心して過せる社会にしていきたいです。

小学生4年生～6年生の部

＊作品は原文のまま掲載しています。

宮城県ＰＴＡ連合会長賞

ぼくの家の合言葉

気仙沼市立松岩小学校　四年　三浦　桃

ぼくの家では朝の合言葉があります。「めんきょしょう持だいよー」と「右左見らいよー」です。合言葉と言ったけれど、これは、ばぁばの口ぐせです。家族が会社や学校に出発する時、必ず声をかけてくれます。そんな声が元気なばぁばですが、ぼくはばぁばが運転するのを見た事がありません。二年前からベットでねたきりの生活をしているので、車に乗る事もできなくなっています。

夏休みにばぁばに聞いてみました。

「ばぁばのめんきょしょう見せてよ。」

すると、ばぁばは自分の財布から本物のめんきょしょうを見せてくれました。本当に持っていました。でも、「有こう期げんが２０２６年８月３１日まで」と書いてあります。

「ばぁば大変！もうすぐ有こう期げんが切れちゃうよ」ぼくはあわてて言いました。

「もうめんきょしょうとサヨナラするんだよ。でも五十年以上む事こむい反だったよ。」と笑いながら言っていました。ぼくはがっかりしました。いつかばぁばの運転する車に乗ってみたいと思っていたからです。

「ばぁばがめんきょを取ったころは、女の人がめんきょを取るのはめずらしかったんだよ。まわりの友達もばぁばをうらやましがっていたんだよ。」

ぼくは、毎朝ばぁばが言ってくれる言葉の意味の大切さが分かりました。とても大事にしていた自まんのめんきょしょうを、お父さんやお母さんに毎朝わすれないように声をかけて、僕が学校に行くときに車にひかれないように気を付けて歩くために声をかけてくれていたのです。

「ばぁばって運転上手だったの？」とお父さんに聞いてみました。すると「上手っていうか、むりをしない運転だったかな。気仙沼市内しか運転しないようにしてて交通量の多い仙台に行く時は電車に乗って行って、知らない道を走らないようにしていたよ。後、夜も運転しないようにしてたかな。だからむ事こむい反だったのかもね。」

なるほど運転が上手じゃなくても、むりをしない運転をしていればむ事こむい反を五十年以上も続けられるみたいです。

ぼくもあと八年でめんきょがとれると聞きました。早くめんきょをとってばぁばも乗せてあげたいです。でもむりをしないことが大切です。むりな運転をすると、事こをおこしてしまうかもしれません。

ぼくはむりをしない歩行者になろうと決めました。朝、学校に行くときも時間ギリギリにならないようにします。ギリギリだと走らないとちこくするので、左右をよく見ないで車にひかれてしまうかもしれません。

作文の部　応募作品数

小学校１～３年生の部	３０作品
小学校４～６年生の部	５６作品
中学校の部	３８作品
合　　計	１２４作品